

事例7 医療法人財団 天翁会 天本病院（東京都多摩市）

(1) 病院グループ概要

医療施設	介護・福祉施設	在宅サービス
天本病院（72床） 回復期リハ病棟 27床 介護力強化病棟 45床 （平成15年度より一般病床へ転換） 診療所 あいクリニック（往診専門）	介護老人保健施設 ・ あい介護老人保健施設（定員150人）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護ステーション ・ 在宅介護支援センター ・ 居宅介護支援事業所 ・ いきがいデイサービスセンター

職員数（常勤換算）

・ 医師	14.7名
・ 看護師	54.8名
・ 介護職員	96.4名
・ 理学療法士	11名
・ 作業療法士	14名
・ 言語聴覚士	3.2名
・ 薬剤師	3名
・ 放射線技師	2名
・ 検査技士	2名
・ 管理栄養士	2名
・ ソーシャルワーカー	8名
・ ケアマネージャー（専任）	7名
・ 社会福祉士	2名
・ 精神保健福祉士	1名
・ 事務	18名
・ その他	2名

標榜診療科

内科、循環器科、呼吸器科、
神経科、
リハビリテーション科

沿革

昭和55年	天本病院開設（86床）
昭和55年	院内の在宅医療スタート
昭和62年	院内の訪問看護スタート
平成9年	在宅介護支援センターを市より受託
平成11年	往診専門の診療所、訪問看護ステーションを病院より分離独立
平成13年	居宅介護支援事業所開設 老健開設
平成14年	介護力強化病棟の一部を回復期リハビリテーション病棟に転換
	いきがいデイサービスを市より受託
平成14年	24時間オンコール体制開始（電話相談受付）

(2) 地域特性

天本病院の立地する多摩市は人口 14 万人、二次医療圏（南多摩医療圏）の人口は 128 万人である。高齢者ケアの提供体制を、高齢者人口 10 万人当りの定員数で見ると、特養の定員が全国平均 1,361 人に対し 2,198 人と林立している。療養病床は全国平均と比べると少ないものの、都内の中ではやはり最も療養病床数の多い医療圏である。当該地域は、現在では宅地化が進んでいるが、都内 23 区に対する最大の高齢者ケアベッド供給地帯と言える。

表 33 二次医療圏における高齢者 10 万人当り病床・定員数

	療養病床 (病院+診療所)	特別養護老人 ホーム	老人保健施設
南多摩医療圏	945	2,198	1,023
全 国	1,354	1,361	1,060

資料：医療施設調査（平成 12 年 10 月 1 日現在）WAM NET（平成 15 年 3 月末時点）より作成

(3) 地域における位置づけ・戦略など

同院は、全国に先駆けて住宅街に老人病院を開設し、早くから卓越した考えに基づく高齢者医療のあり方を模索してきた。したがって、天本病院の場合、自院の位置づけや経営戦略立案に際して、地域特性との関連性はあまり見られない、数少ないケースと言えよう。

長らく高齢者医療を手がけてきただけに、高齢者の意思の尊重、在宅重視がベースにあり、その結果、24 時間 365 日いつでも安心して医療・介護について、相談・連絡できる体制づくりを目指すものとなった。

そこで同院は、「地域を病棟、病院をナースセンター、住まいを病室」とする考えを打ち出した。そのため、電話一つで必要に応じて医師や看護師が駆けつける、何かあればいつでも入院できるように、空きベッドを確保しておく体制とした。

同院が目指す体制構築は、まだ実践途上にあると見られるが、以下にその現状を紹介する。

(4) 地域のナースセンター

従来、病院は地域患者が集まる場所であり、病院経営もいかに患者を集めるかに苦心してきた。同院では、入院中心の医療の発想を変え、在宅支援機能の強化を図

った。既述のとおり、病院をナースセンターとして捉え、逆に病院から地域に出て行く方式を取り入れた。同院ではこれを、ベース（基地）方式と呼んでいる（図 9 参照）。

具体策としては、第一に在宅部門の機動化、効率化のために、在宅医療、在宅看護を病院部門から分離させた。

第二に、平成 14 年より 24 時間オンコールシステムを導入した。この 24 時間オンコールシステムの実績（平成 14 年 4 月～12 月）を見ると、表 34 の通りで、時間外（19 時～翌朝 8 時）の電話件数は、月当たり平均 150 件前後もあり、そのうち訪問看護や往診が必要なケースが 3～10 件程度、来院が必要なケースが 10～20 件程度であった。これより、オンコールシステムの必要性を改めて実感した。

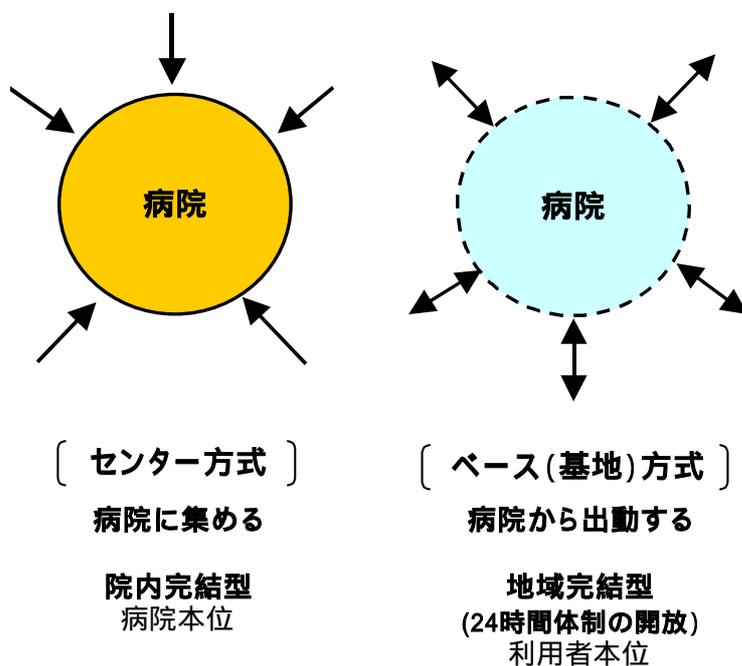
第三に、医療・介護をトータルに提供する体制を強化するために、介護分野のサービス提供を開始した。平成 13 年には老健を建設し、病院と在宅を結ぶ中間施設の機能をグループ内に付与した。同年、市より生きがいデイサービスセンターの運営を委託され、介護予防のサービスにも着手した。さらに、多摩市在宅介護支援センター事業を受託し、一方院内にも「在宅ケアサービスステーション 24」を開設し、地域における介護・福祉に関する相談全般を受ける体制も整えた。

第五に、医療・介護をトータルに提供する体制強化の一環から、ある程度の急性期に対応すべくこれまでの介護力強化病棟を、一般病棟とする計画を立てた。ちなみに、この新病院建設にあたっては、土地を賃借とし、資金の固定化を防いでいる。

第六に、急な対応でも機動的に応じ、一貫したケア提供が可能ないように、上記各施設間に LAN を設置し、Office 4 を導入して各施設の情報を閲覧できるシステムとし、かつ法人内各施設の内線電話化を図り、職員間の情報共有化を促進している（図 10 参照）。

今後は、これら情報ネットの一部を法人外にも広げ、地域にある資源の有機的連携のもと、24 時間 365 日、地域全体で安全網を構築し、患者を軸にした医療・介護を提供する体制を目指したいのことである。

図9 病院の概念



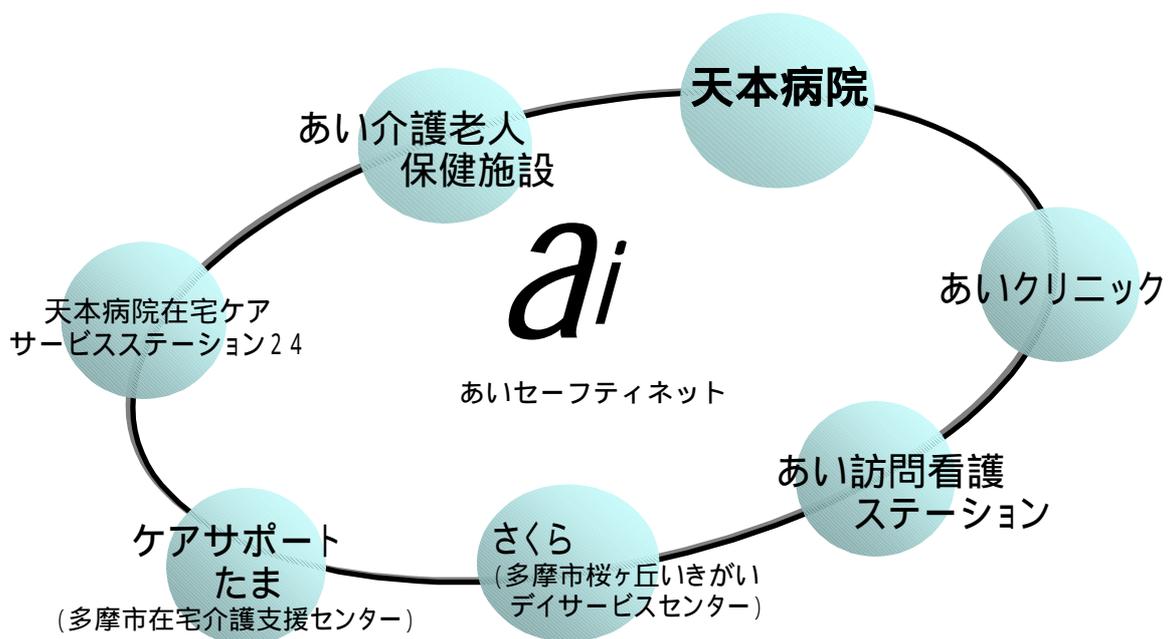
資料：天本病院

表34 24時間オンコール体制の現状（平成14年4月～12月）

	時間外 電話総数	外来受診内容				時間外 出動件数
		診察 処置	入院	他院 転送	外来 死亡	
4月	183	14	3	2	1	4
5月	163	8	1	3	0	4
6月	182	11	0	4	0	9
7月	148	8	0	2	0	7
8月	140	8	1	1	0	10
9月	152	10	1	4	2	7
10月	148	10	2	2	0	7
11月	151	15	0	1	2	3
12月	137	6	3	4	1	3

資料：天本病院

図 10 法人内の情報共有



資料：天本病院